

平成 2 9 年度の委員会運営方法について

1 付議事件

運動による介護予防等あらゆる世代の健康づくり及び大規模スポーツイベント開催やスポーツ関連施設の整備等スポーツの振興に関すること。

2 市会運営委員会（平成 2 4 年 5 月 8 日開催）での特別委員会運営方法に関する決定事項

- ・ 付議事件の調査・研究を目的として、委員間の意見交換、事例視察や参考人意見聴取などを行う。
- ・ 委員会報告書は、付議事件に対する結論や一定の方向性を得たとき又は議員任期が満了するときに議長に提出するものとする。

裏面あり

(参考：過去の特別委員会における調査・研究内容)

【平成28年度：調査・研究テーマ】

スポーツができる・スポーツに親しめる環境づくりについて

<選定理由>

横浜市は、4つの多彩なプロスポーツチームが活躍している国内屈指の都市であり、世界トライアスロン横浜大会などの国際大会が開催されるとともに、市民参加型のスポーツイベントも開催され、横浜マラソンには多くの申し込みがあるなど、市民のスポーツへの関心は非常に高いと言える。また、ラグビーワールドカップ2019の決勝戦や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、それらを契機に国内外に横浜の魅力を発信するとともに、世代にかかわらず子供から高齢者まで全ての市民がスポーツに親しみ、健康で心豊かに生き生きと暮らすことのできる社会の実現が望まれている。しかしながら、それを実現するための身近でスポーツができる、普段からスポーツに親しめる環境づくりが課題となっていることから、スポーツを行う場所の確保やスポーツに接する機会の向上に向けてどうすればよいかということについて調査・研究を行うこととした。

【平成27年度：調査・研究テーマ】

生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域での運動習慣を育む取り組みについて

<選定理由>

横浜市が目指す「健康寿命日本一」「全市民が健康づくりに取り組むまちづくり」の実現のためには、幼少期から高齢期まであらゆる世代が身近な地域でスポーツに親しみ、気軽に健康づくりに取り組める環境をそれぞれの地域で醸成していくことが肝要である。東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を前に、市民のスポーツに対する関心が高まる中、横浜市をホームタウンとする4つのプロスポーツチームや平成27年にフルマラソン化された横浜マラソンをはじめとする市内で開催される多数の大規模スポーツイベントの存在もあり、それぞれの地域でこれらの資源を活用した多様な施策展開がしやすい環境にある。そこで、今年度は生涯スポーツ社会の実現に向けた重要な要素である「地域」にスポットを当て、地域の運動習慣を育んでいくにはどうすればいいか、ということについて調査・研究を行う。

【平成26年度：調査・研究テーマ】

生涯スポーツを通じた健康づくりの取り組みについて

<選定理由>

横浜市は、4つのプロスポーツチームの拠点であり、トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会や横浜国際女子マラソン大会など、数多くの国際大会が開催されるとともに、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まるなど、市民のスポーツに関する関心は今まで以上に高まっている。また、超高齢化社会を迎える中、スポーツや運動を通じてあらゆる世代の健康づくりを進めていくことは本市において大変重要な施策の一つとなっており、こうした状況を踏まえて本特別委員会が本年度設置されている。あらゆる世代の健康づくりを進めていくためには、行政の取り組みや地域スポーツにおける健康づくりの現況等を把握することが必須であり、本委員会の初年度として、行政及び議会としての役割を再認識するべく、各ライフステージを通じた生涯スポーツによる健康づくりの取り組みについて、事例の検証、現地視察や専門家からの意見聴取などを行い、調査・研究を行う。